

鑑賞活動を表現活動に生かすことができる生徒を育てる美術科学習指導 ～作品の構成を明確にした鑑賞の言語活動を通して～

要約

学習指導要領の改訂（平成 20 年）から、美術の基礎的な能力を育むためには、「鑑賞活動」と「表現活動」を密に連携させた授業づくりが重要であると考えた。

生徒は作品を制作したい意欲はあり、作品について鑑賞を行うことが作品表現につながることを理解している。しかし、制作の際にどのような点に気を付け、鑑賞の際にどのような点を意識して学習をすすめていけばよいか理解していない現状がある。そこで本主題「鑑賞活動を表現活動に生かすことができる生徒を育てる美術科学習指導」を設定した。

研究主題の解明のために、

- (1) 参考作品の鑑賞を行い、自分が気付いた点やよいと感じた点をワークシートに記入させる。
- (2) 作品制作の際に、友達からアドバイスをもらい、自分の作品の改善点を考える時間（練り直しの時間）を設定する。
- (3) 自分の作品の工夫点やアピールを色彩・形・材料・光の 4 項目にそってまとめ、プレゼンテーション形式で発表の時間を設定する。

以上の学習活動を設定すれば、鑑賞活動を表現活動に生かす生徒を育てる美術科の授業が展開できるであろうと考え、日々の授業の指導に加え、以下のように取り組んだ。

実践事例 1 題材「葉っぱを描こう」	実践事例 2 題材「和紙のランプシェード」
<ol style="list-style-type: none"> (1) 実物の葉をよく観察し、気付いた点をワークシートに記入する。 (2) 作品完成後、自分の作品の工夫点を詳しく感想カードに記入する。 (3) 自分の作品をプレゼンテーション形式で班の人に発表する。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 参考作品を鑑賞し、気付いた点や感じたことをワークシートに記入する。 (2) 制作の途中段階で、自分や友達の作品の良い点や改善点を話し合い、構想の練り直しの時間を持つ。 (3) 作品完成後、自分の作品の工夫点を 4 項目（色彩・形・材料・光）に分けてワークシートに記入する。 (4) 自分の作品をプレゼンテーション形式で班の人に発表する。

本研究を通して、次の成果と課題が明らかになった。（○成果●課題）

- 作品制作の際に練り直しの時間を設定したことで、自分の作品と向き合い、自分のテーマにあった作品の構想を深め、制作することができた。
- 4項目をとりいれた鑑賞を繰り返し行ったことで、具体的な表現活動につなげることができた。
- つかむ段階から 4 項目に注目させたため、作品制作の際、構想の幅を逆に狭めてしまった。
- 言語活動を行う観点において、「自己との関係性」と「他者や社会との関係性」の二つの視点が曖昧になってしまった。

キーワード： 4 項目（色彩・形・材料・光）、表現活動、鑑賞活動、言語活動、作品構成

1 主題設定の理由

(1) 社会的要請・現代教育の動向から

学習指導要領の改訂（平成 20 年）により、図画工作科、美術科、芸術科の改善の基本方針には、「思考・判断し、表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てること」や「よさや美しさを鑑賞する喜びを味わうようにするとともに、自分の思いを語り合ったり、自分の価値意識をもって批評しあったりする」ことが示されている。このことから、美術の基礎的な能力を育むためには「鑑賞活動」と「表現活動」を密に連携させた授業づくりが重要であると考えた。

中学校美術において、第一学年では「基本的な表し方・見方・考えかたといった機能的な能力を保証することによって創意工夫することやよさを感じること」「生徒一人ひとりがよりよい表現を目指して、試行錯誤をしながら色・形とかかわることの喜びと達成されたときの成就感を味わうこと」を重視している。これをふまえて、第一学年の目標として

(2) 対象を見つめ、感じ取る力や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技能を身に着け、意図に応じて創意工夫し美しく表現する能力を育てる。

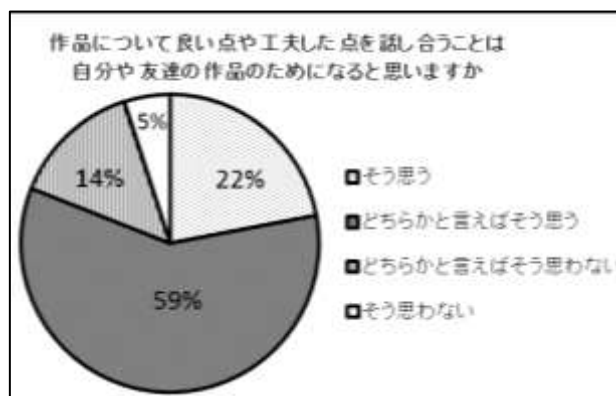
と示されている。今回はこの目標の「形や色彩などによる表現」にふまえ、（共通項目にもかかわる）対象の形や色彩に加え、材料・光に注目させる。そして、それらの多様性や豊かさを表現の過程において生かそうとする基礎的な表現の技能を身に着けさせることをねらいとし、本主題を設定した。

(2) 生徒の実態から

本学年の生徒（1年生）は、平面構成やデッサン、写実的表現の学習に意欲的に取り組む生徒が多い。美術に関する意識調査結果からは「もっと複雑なものをデッサンしてみたい」「風景画などを描くときの水彩の色の使い方を知りたい」「色をバランスよく構成したい」などの意見が多く挙げられた。また、デッサンの学習では、自分で制作した作品の鑑賞を行い、自分や友達の仕事の良い点や工夫した点を探し、言葉で表現するということも学習してきた。

調査結果から「作品を制作する際、アイデアがすぐ浮かびますか」という質問に対して「すぐ浮かぶ」25%、「浮かぶ」41%、「なかなか浮かばない」27%、「浮かばない」7%の結果がでている。また、「作品を見て、友達と話し合うことは自分やみんなのためになりますか」という質問に対して、「そう思う・どちらかといえばそう思う」計81%「どちらかといえばそう思わない・思わない」計19%の結果が出た。【資料①】これらの理由として「何に注目して鑑賞したらよいかわからない」「具体的に言葉にすることが苦手」ということが挙げられた。

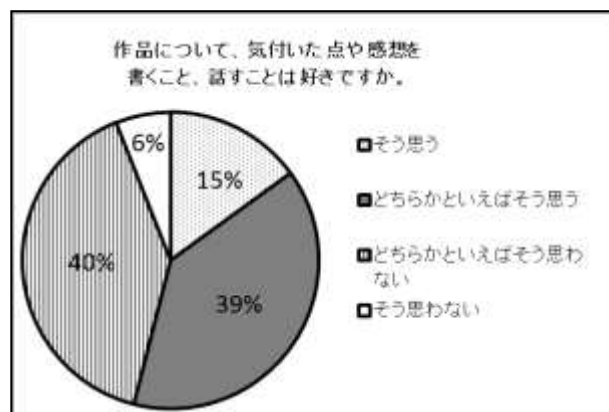
また、「作品について、気付いたことや感想を文にして書くこと・話すことは



【資料①】 美術に関する意識調査 結果】

好きですか」という質問に対しては「どちらかといえばそう思わない・そう思わない」46%の結果が出た。【資料②】これらの理由として、「何を書いていいかわからない」等があげられた。

このことから作品を制作したい意欲はあり、作品について鑑賞を行うことが作品表現につながることは理解しているが、制作の際にどのような点に気を付け、鑑賞の際にどのような点を意識して鑑賞の学習をすすめていけばよいか理解していない現状がある。



【資料② 美術に関する意識調査 結果】

2 主題の持つ意味

(1) 主題の意味

① 「鑑賞活動」とは

「鑑賞活動」とは、作品のよさや美しさを友だちと話し合い、気付いたことや考えたことを互いに言葉で説明しあうことである。

ここでの「鑑賞活動」とは、自分や友だちの作品、または参考作品について、気付いたことや考えたことをお互いに言葉で説明しあう活動である。作品について話し合う際に、「色彩・形・材料・光」といった4項目に注目していく。例えば、「この作品はここにこの赤を使っているからアクセントとなって美しい」(色彩)や「この円の組み合わせは大小の組み合わせで、動きがあっておもしろい」(形)など、作品のよさや美しさを具体的にとらえる。この4項目に注目して鑑賞活動を行うことで、自分にはない新たな見方や感じ方に各項目で具体的に気付くことができる。これらの能力は一度の活動で身に付くものではなく、継続的な指導の中で身に付くものとする。

② 「表現活動に生かす」とは

「表現活動に生かす」とは、鑑賞して学びとった作品のよさや美しさを自分の作品に取り入れ、表現を高めようとする態度のことである。

例えば、「この前見た作品は補色を使ってきれいだったから、自分の作品の中にも補色の組み合わせを使って、緑の隣は赤にしよう」「友達作品の中におもしろい立体の形の組み合わせがあったから、自分の形の違うもの同士で組み合わせよう」などと思い、自分の作品の工夫をしていくことである。この表現活動を行うためには日々の授業の作品を制作・鑑賞していく中で、4項目を意識し、作品のよさや美しさを見つけ、蓄積していくことが必要である。そして、自分の作品制作の際に、蓄積された見方や考え方から作品のイメージにあうものを発想・選択・構想し、制作していくことで、表現に生かすことができるようになると思う。

(2) 副題の意味

① 「作品の構成を明確にした」とは

「作品の構成を明確にした」とは、自分が制作したいテーマにそって、「色彩」「形」「材料」「光」を意識し、それぞれを具体的に構想図に描くことができることである。

作品の構想をする際、「淡い色合いを出したいから和紙は白を使おう」「にぎやかなイメージにしたいから丸い模様を入れよう」など、「〇〇したいから△△しよう」といった自分が制作したいイメージやテーマのためにどのような手立てをとればよいかを明確に構想していることである。

② 「鑑賞の言語活動」とは

「鑑賞の言語活動」とは、作品のよさや美しさを見つけ、それを言葉として書く・伝えることを意識させた鑑賞活動である。

例えば、友達の作品を鑑賞する際、4項目を意識し、「色が白とピンクの淡い組み合わせだから優しく見える」(色)など、自分がよい、美しいと感じたことを言葉にし、相手に伝えることができる。また、自分の作品で「自分の作品のこの形は、こういう意図があってこの形である」(形)など具体的に言葉として書き、相手に分かりやすく伝える表現活動を行う。この活動を行うことで、制作の際にどのようなことに気を付け制作していけばよいか、鑑賞の際にどのような点に注目して作品を見ればよいかを具体的に理解できる。

また、この活動を作品制作過程の中に設定する。これにより、生徒は個人の活動になっている制作の時間においても、生徒同士の交流を深め、自分の作品に対してもう一度見直し、考える機会を与えることができる。

3 研究の目標

鑑賞能力を身に着けた生徒を育てるために、創作活動の中で作品の見方・考え方を言葉として書く・伝えるなどの言語活動を取り入れ、鑑賞の視点を明確にした授業の在り方を研究する。

4 研究の仮説

- (1) 参考作品の鑑賞を行い、自分が気付いた点やよいと感じた点をワークシートに記入させる。
- (2) 作品制作の際に、友達からアドバイスをもらい、自分の作品の改善点を考える時間(練り直しの時間)を設定する。
- (3) 自分の作品の工夫点やアピールを色彩・形・材料・光の4項目にそってまとめ、プレゼンテーション形式で発表の時間を設定する。

以上の学習活動を設定すれば、作品に対する見方、考え方を深め、鑑賞活動を表現活動に生かす生徒を育てる美術科の授業が展開できるであろう。

5 仮設検証の内容と方法

(1) 参考作品の鑑賞を行い、自分が気付いた点やよいと感じた点をワークシートに記入させることについて

単元の導入として、参考作品の鑑賞を行う。いくつか作品を見せ、生徒がいいな、好きだなと思った作品に対して、なぜそう思ったのかをワークシートに記入させる。その際、4項目（色彩・形・材料・光）に注目させる。そうすることにより、自分が作品を制作する際に、どのような点に気をつけて制作すればよいかを具体的に意識することができ、今後の制作における構想につなげることができる。

(2) 作品制作の際に、友達からアドバイスをもらい、自分の作品の改善点を考える時間（練り直しの時間）を設定することについて

作品の制作時間は個人の時間となり、生徒は作品を一度立ち止まって考える時間がとりづらい。そのため制作の時間は、作品に対する見方、考え方を深める思考が停まってしまう生徒が多い。そこで、制作途中に友達とお互いに制作過程の作品を見て、友達の作品のよい点や工夫点や改善点を見つけ、アドバイスをを行うよう指導する。そうすることで、生徒は自分の作品の練り直しができ、今後の制作に生かすことができる。この時、自然に作品のことに対して会話ができるよう班形態で制作をさせる。

(3) 自分の作品の工夫点や紹介したい点を色彩・形・材料・光の4項目にそってまとめ、プレゼンテーション形式で発表の時間を設定することについて

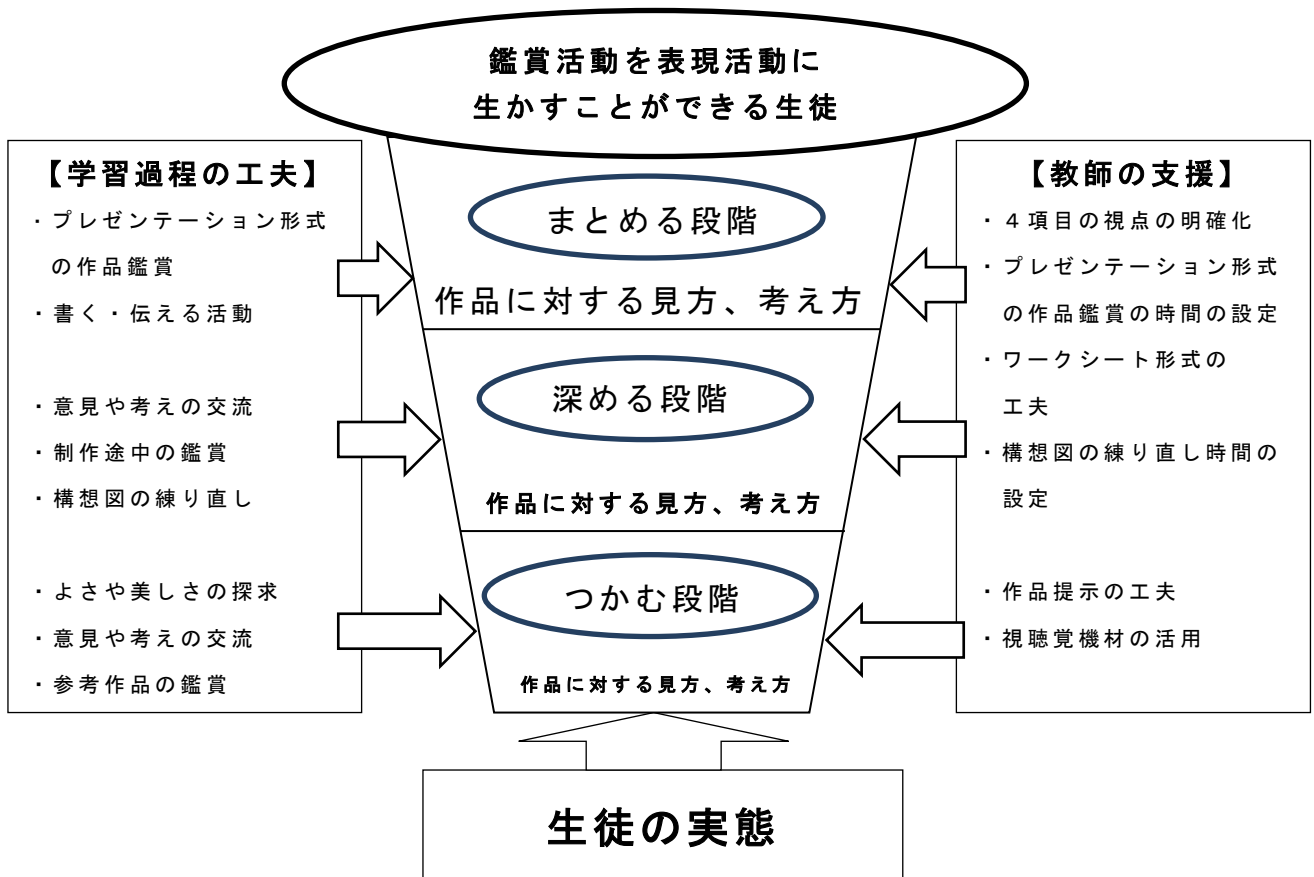
ここでは、お互いの作品が完成した後、鑑賞活動を行う。自分の作品の工夫点を色彩・形・材料・光の4項目にそってまとめ、発表をさせる。ただ記入したことを読むだけの活動ではなく、実際に自分の作品と照らし合わせながら、構想から記入してきたワークシートや付箋を使ったプレゼンテーション形式の発表を行わせる。そうすることで、相手に自分の考えを分かりやすく伝える力をつけることができる。また、聞く方は制作者がどのような工夫をしかたを項目ごとに知ることができる。制作者も自分で気づいていなかった作品の良さを知ること、次の制作に対しての展望を見出すことができる。

上記の活動の中で共通しているのは、いずれの活動の際も、色彩・形・材料・光の4項目に注目をさせることである。この活動を何度も繰り返すことにより、作品に対して、どのような点に注目していけばよいかを自然と意識させることができると考える。また、繰り返しの中で蓄積された見方・考え方を今後の作品制作の発想に生かしていくことができると考える。

6 研究計画

6月	アンケート実施	11月	実証及びデータ分析
7月 8月	教材分析・教材構成	12月	データ分析とまとめ
9月	実証及びデータ収集・ データ分析	1月	研究のまとめ
10月	仮説の見直し	2月	研究報告

7 研究構想図



8 研究の実際

(1) 実践事例1 題材「葉っぱを描こう」

本題材は、自分たちの身の回りの風景を観察し、葉の美しさを再発見し、自分の思いを込めて表現することによって表現活動の魅力を楽しむ心構えを育成するために意義深い題材である。

① 題材の目標

- 葉の特徴をとらえ、具体的な手立てを構想し、表現に生かすことができる。
- 作品のよさや美しさを言葉で表現し、作品の工夫した点を「色彩」「形」「材料」「光」の4項目にそって説明し合い、作品の見方や感じ方をひろげることができる。

② 展開

展開	学習活動	支援の内容と有効性
つかむ	1 「葉っぱのフレディ」の読み聞かせを聞き、感じたことをワークシート記入する。	○読み聞かせを行ったことで葉の色の移り変わりや手触りの変化に気付くことができた。
深める	2 自分が持ってきた葉をよく観察し、気付いた点をワークシートに記入する。	○何に注目して観察すればよいかをわかりやすく黒板に掲示した。(葉や葉脈の形、葉の色の濃さ、手ざわり等) そうすることで、何に気を付けて描けばよいかを考えることができた。

	3 自分の葉を実際に見ながら葉を描く。	○混色などの技法を教え、実物の葉を見ながら描くことで、実際の葉により近い色を自分で作り、細かい描写をすることができた。
	4 自分の作品の頑張った点・工夫した点を感想カードに記入する。	○色の塗り方や形の描き方等の頑張った点や工夫した点を具体的に記入させることで、自分の作品の振り返りを行うことができる。
まとめ	5 記入した感想を基に、自分の作品のプレゼンテーションを班で行う。	○プレゼンテーションを少人数で行うことで、一人ひとりの作品に注目して発表を聞くことができ、作品に対する見方・考え方が深まった。

(2) 実践事例2 あかりを灯して ～和紙をつかったランプシェード～

本題材は、目的や条件などを基に、形や色彩、材料を機能的な面をとらえ、それらの特性を生かして美しく発想や構想するためにも意義深い題材である。また、作品の工夫点を「色彩」「形」「材料」「光」の4項目にそって具体的に考える時間を多く設定することで、自分の作品と向き合い、構想をよりよいものに仕上げようとする力を育てることをねらいとしている。

①題材の目標

- 参考作品から感じ取った形や色彩の美しさ、制作したランプシェードを自分の家に置くことを想像したことなどを基に、構想図を生み出すことができる。
- 自分が表したい作品の意図に応じて和紙の生かし方を考え、創意工夫して表現することができる。
- 作品のよさや美しさ、作品をどこに置くかによって、見る人にどのように感じてもらいたいかななどを言葉で表現し、作品の工夫した点を「色」「形」「材料」「光」の4項目にそって説明し合い、作品の見方や感じ方をひろげることができる。

②展開

展開	学習活動	支援の内容と有効性
つかむ	1 イサム・ノグチの「AKARIシリーズ」の鑑賞を行い、気付いた点・感じたことを鑑賞カードに記入する。	○活動を班で行うことで、気付いた点や感じたことの交流ができ、自分の気付かなかった点にも気付くことができた。
深める	2 自分の作品の構想図を描き、置く場所や使い方を考え、構想カードに記入する。	○置く場所を自分の家に限定し、場所や使い方を考えさせることで、より明確に作品の構想図を描くことができた。
	3 制作の途中段階で自分の作品と友達の商品を見ながら、意見交換を行い、構想図の練り直しを行う。	○制作の途中段階で、自分の作りたい内容を友だちと交流し、アドバイスをもらうことで、自分では気づかなかった視点に気付くことができ、具体的に構想図を練りなおすことができた。
	4 作品の鑑賞会を行う。	○感想を記入する前に暗室で鑑賞会を行ったことで、光の通り方など、自分の作品から新たに気付く点を見つけることができた。

		<p>○ 4項目に注目させて感想を記入させることで、自分の工夫点や頑張った点をより具体的に言葉で表現することができた。</p>
<p>まとめる</p>	<p>6 記入した感想を基に、自分の作品のプレゼンテーションを班で行う。</p> 	<p>○ 自分の作品を友達に4項目にそってプレゼンテーションすることで、言葉で具体的に自分の作品の工夫点を友達に紹介することができ、聞く側も鑑賞のポイントを4項目に注目して鑑賞することができた。</p> <p>○ 友達から自分の作品の良い点やアドバイスを付箋に書いてもらうことで、完成後の新たな発見をし、自分の作品の頑張った点を認められることで、次の制作に対しての意欲をもたせることができた。</p>

9 全体考察

(1) 実践事例1から

つかむ段階では、「葉っぱのフレディ」の読み聞かせや、深める段階の葉っぱの観察を行うことにより、色や形に注目し、どのような点に気をつけて葉っぱを描いていくかを理解している生徒が多く見られた。しかし、【資料③】の下線部のように注目する点は分かっているが、どのような手立てを使っ

葉っぱ	
1年()組 名前()	
○感想	<p>色は左を明るくして右を暗くしたのを工夫した。サザナギ</p> <p>な形を表現するのを頑張った。茎の透明さを表</p> <p>現するのが難しかった。枝の先の人を黒くするのを</p> <p>球した。真ん中の部分が右は少し赤を混ぜて暗くす</p> <p>るのを工夫した。最後になぞては、塗りさせた。</p>

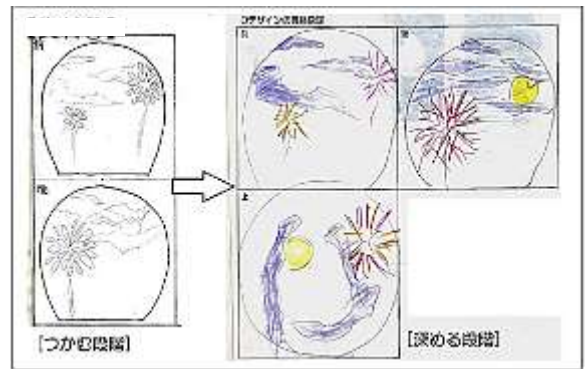
【資料③】

たか、方法として記入できている生徒は36人中16人という結果であった。このことから、生徒は「〇〇するために、△△した」というように、「こんな表現するために、この方法をとればよいだろう」ということが明確になっていない。そのため、つかむ段階や深める段階において、「鑑賞活動で気付いた点を明確に表現活動に生かすこと」が出来ていない生徒が多いと考えられる。

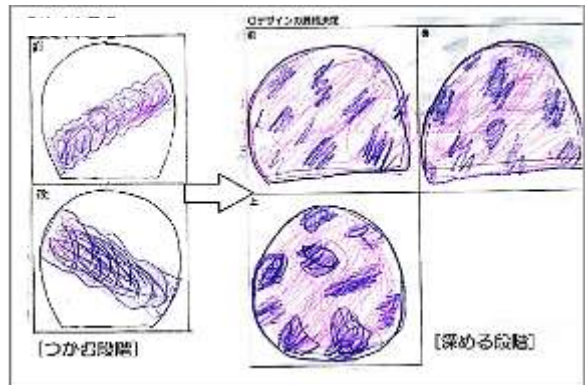
(2) 実践事例 2 から

深める段階では、制作の途中段階で自分の作品と友達作品を見ながら、意見交流を行い、構想図の練り直しを行う時間を設定した。このことにより、生徒は自分の作品を見直し、これまで扱ってきた和紙の性質や色和紙の色彩などを把握した状態で、自分の構想図を練り直すことができた。

ここでは、つかむ段階の構想図から大きく変わることなく、より具体的に練り直した生徒もいれば【資料④】、友達のアドバイスや和紙の性質から構想図を変更し、より自分が表現したいテーマにあったデザインを練り直す生徒も見られた。【資料⑤】このように、練り直しの時間を設定することによって、作品の構想図をより具体的に考え、制作に生かすことができたと考える。(36人中28人「ワークシート」より)



【資料④】



【資料⑤】

(3) 実践事例 1 と 2 の感想から

事例 1 と事例 2 の感想から比較すると、事例 1 の葉っぱの感想では自分が頑張った点・工夫した点が「色」のことだけだったが、事例 2 の感想を見ると「題名」「色」「形」「光」「材料」と項目ごとに分けられ、それぞれ具体的にどのような手立てをとったか記入されている。【資料⑥】これは、深める段階で設定した練り直しの時間に自分の作品を見直し、自分がつくりたいテーマにあうためには「色彩」「形」「材料」「光」のことに注目し、どのように変更または明確化していけばよいかを考えたことが大きく関係していると

葉っぱ	
1年()組 名前()	
○感想 工夫したところは、 <u>厚さを下げる</u> と何種類も作って何回も作り重ねたところ。頑張った所は、 <u>葉脈の濃淡をだす</u> ことと、 <u>色をどうにか上にいくほど葉脈の厚さを減らして分かりやすくしました。影をつけました。</u>	
↓	
自分の作品 題名「 <u>花火</u> 」 <題名について> <u>和紙というと、日本のイマジナリな感じがして、日本のことを考えて作りました。</u> <色について> <u>空の色は作りにくいたので、<u>葉を</u>描きました。</u> <形について> <u>形が一番作りやすかったので、<u>花火の上から見た</u>形の線です。和紙を細長く切り取りました。</u> <光について> <u>無垢な物を白くすることで、<u>白</u>の和紙の質感がより出ました。</u> <材料について> <u>和紙は普通の紙と違って、<u>繊維が粗い</u>ので、<u>少し力を入れて</u>貼ることができました。</u>	

【資料⑥】

考えられる。また、友達作品を見て思ったことや感じたことを鑑賞カードに記入させたところ、「置く場所によって色や和紙の重ね方に工夫が見られた」「和紙の色の使い方・重ね方で全然違った作品になった」「自分が目立たせたかったところを褒めてもらえてうれしかった」【資料⑦】など、友達作品の工夫点の発見や自分の作品の良い点を見つけてもらえてうれしかったことを記入している生徒が36人中31人見られた。

また、【資料⑧】のように、班の友だち一人ひとりの作品の良かった点を記入したり、

自分の作品についての新たな発見をしている生徒も多く見られた。これは、付箋に自分が友達の仕事のよいいと思った点を付箋に書き、お互いに渡しあうことで、自分や友達の作品を振り返ることができたためだと考えられる。

友だちの作品を見て
自分が 自立させた点が評価されています
みんな、その場所に合せて、色や線を選んたれている
すまじかた、みんな、わいわい自立させようとしている
戸が、いい、いい工夫が、見られた。自分だけ、きれいに
たか、て、いい家、て、いいです。

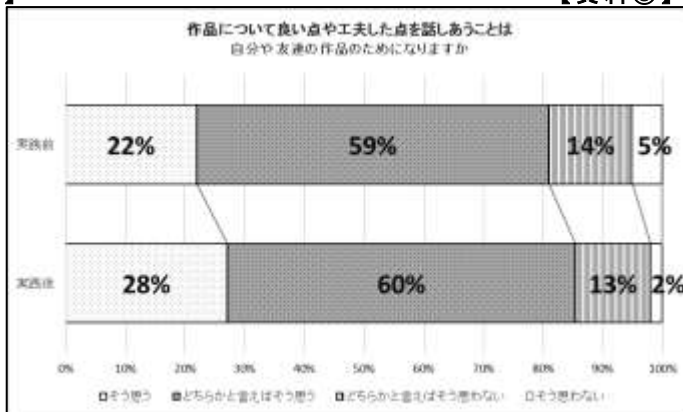
【資料⑦】

友だちの作品を見て
君の、いい、か、と思、い、し、た、理、由、は、簡、単、
い、う、類、名、と、作、品、が、よ、く、合、て、い、た、か、ら、で、す、か、さ、り、も、少、な、く、シ、ン、プ、ル、で、
い、い、と、思、い、し、た、。、君、の、は、気、と、青、色、の、組、み、合、わ、せ、が、き、れ、
い、た、な、と、思、い、し、た、。、自、分、以、外、の、い、ろ、い、ろ、な、作、品、も、見、れ、た、し、題、
名、の、由、来、や、作、品、の、説、明、も、聞、け、て、楽、し、か、た、で、す、。、私、の、作、品、は、
他、の、人、と、比、べ、て、上、の、か、が、暗、い、こ、も、分、り、ま、し、た、。

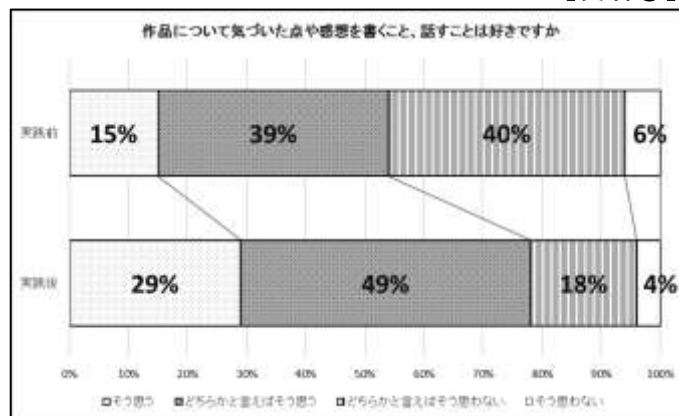
【資料⑧】

(4) 美術に関する意識調査から

実践後に再び行った美術に関する意識調査結果を見ると、「作品を見て、友達と話し合うことは自分やみんなのためになりますか」という質問に対して、「そう思う・どちらかといえばそう思う」計88%の結果が出ており、事前調査から比べると7%とわずかではあるが増加が見られた。【資料⑨】
また、「作品について、気付いた点や感想を文にして書くこと、話すことは好きですか」という質問に対して、「そう思う・どちらかといえばそう思う」は計78%の結果が出ており、事前調査と比べると24%の増加が見られた。【資料⑩】
これは表現・鑑賞両方の段階で4項目に注目し、自分の作品の工夫点を具体的にとらえることができたことと、まとめる段階のプレゼンテーションの際に自分の作品の良い点を友達から言葉として表現してもらったことにより、自分の頑張りが認められたことへの喜びにつながっている。



【資料⑨】



【資料⑩】

10 研究の成果と課題 (○成果 ●課題)

- 作品制作の際に練り直しの時間を設定したことで、自分の作品と向き合い、自分のテーマにあった作品の構想を深め、制作することができた。
- 4項目をとりいれた鑑賞を繰り返し行ったことで、具体的な表現活動につなげることができた。
- 最初から4項目に注目させたため、作品制作の際の構想の幅を逆に狭めてしまった。
- 言語活動を行う観点において、「自己との関係性」と「他者や社会との関係性」の二つの視点が曖昧になってしまった。